（別添４）

【山形県鶴岡市】
１人１台端末の利活用に係る計画

１．１人１台端末を始めとするICT環境によって実現を目指す学びの姿

ICTを最大限活用し、指導の個別化・学習の個性化による知識・技能の効率的な習得ができるようにする。

また、紙では理解しづらいものを画像や動画を用いて容易に理解できるようにしたり、紙に書いたり口頭での説明を聞いたりしないと共有できなかった友だちの考えなども、即時に可視化・共有化できるICTの良さを生かし、協働的な学びの中で思考力・判断力・表現力を育成する学びを実現する。

学習履歴の蓄積や、つまずきなどについての即時フィードバックが容易にできることも生かし、児童生徒が「何について学ぶか」「どのように学ぶか」という視点で粘り強さと自己調整を発揮し主体的に学べるようにする。

学校外での地域学習など、校内通信インフラが使用できない環境下でも端末を活用する機会が多くなってきたことから、児童生徒が主体的に学習した記録を確実に保存できる端末を整備することで、どのようなシーンでも活用できる環境を整える。

各教科等で、ICTを活用しながら情報を収集したり整理・分析したりする学習活動を通して、一人一人の社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる情報活用能力を育む学びを実現する。

２．GIGA第１期の総括

全国的に初めてとなる取り組みだったため、すべてが手探り状態だった。そのような状況であっても、「児童生徒及び教員からICT・タブレット型パソコン活用してもらうにはどうしたらいいか」ということを常に考え、各種整備を行ってきた。

端末については、すでに校務で使用しているPCがWindowsだったことから、教える側の教員がまず使い方を覚えなければならないことを考慮すると、タブレット型パソコンもWindowsとすることは必須だった。

児童生徒への貸与開始前に教員を対象に研修会を実施するなど、活用に向けての準備を進めていった結果、スムーズに活用を始めることができた。現在も、様々なテーマでミニ研修を実施しており、着実に活用は進んでいる。授業支援システムのベンダーの広報誌にも取材記事が2度に渡り掲載されるなど、同システム利用団体の中でも活用している部類に入ると思われる。

通信ネットワークは、当初想定していた帯域では不足したため、令和４年度に大規模な見直しを行い、それまでの契約を包含する形で新たに契約をし直している。また校内のアクセスポイントについても、校舎の構造等により電波が到達しづらい場所が見つかるなど、当初設置した台数では不十分だったことが判明したため、特別教室等への追加整備等も含め増設した。

その結果、現在の使用状況では不足のない環境となっているが、今後さらに活用が進み、特にCBT等での活用が本格化してくると再び帯域が不足する恐れがあるため、現契約満了後の次期ネットワークについて十分な検討を行い、校内であればいつでもどこでも端末が活用できる環境を整える。

３．１人１台端末の利活用方策

端末を様々なシーンで積極的に活用するために、授業支援ソフトとAIドリルを利用している。

授業支援ソフトは個人で考えをまとめる場面、考えた内容を児童生徒のグループで共有する場面、授業で発表する場面に適した機能を活用している。児童生徒の端末の画面は教員の端末に共有され、支援が必要な児童生徒を瞬時に把握し、適切な指導をすることが可能になっている。

理解度や進度に合わせた学習ではAIドリルを用い、朝学習や振り返りの学習の時間に活用したり、家庭学習や長期休業中の課題としても使用するなど、それぞれの学習のシーンに応じて使い分けている。

また、希望する学校、クラスについては授業配信用の端末を別途用意し、不登校・保健室登校・入院中の児童生徒等、教室で授業を受けられない児童生徒も教室にいる児童生徒と同様に授業に参加できるようにしている。

配信でも授業に参加できない児童生徒については、オンライン会議ツールを活用して、担任や教務、教頭等と相談することもできる。

これらの取り組みは重要であり、すでになくてはならないものとなっていることから、今後も最新の情報を取り入れつつ、学習環境を維持・向上していかなければならない。